

人の尊厳を大切に 暖かい医療を実践
地域のニーズに合わせて医療形態は変遷

医療法人 育和会 育和会記念病院

吉村 隆喜



昭和57(1982)年に開設された育和会記念病院は、現在生野区を中心とした大阪南東部における地域密着型の病院として地域医療に貢献しています。平成19(2007)年からは基幹型臨床研修病院として医学教育にも注力、次世代を担う医師を多く輩出されています。令和6(2024)年より院長を務めておられる吉村院長にお話を伺いました。

のがん専門病院でした。平成5（1993）年に近隣の病院と合併吸収して合計約300床になりましたが、ユーティリティ整備の

く最も高齢化が進んでいる区で
すにより、医療形態の変更が必
須です。2024年6月からの国
の医療政策の変更は、医科にとつ
ても先生方にとっても非常に厳し
いものでした。加えて働き方改革

タ1、訪問看護ステーションとともに、医療法人育和会が運営している施設です。4つの施設は密に連携し、利用者様の具合が悪くなつたり緊急を要する場合は、速やかに育和会記念病院で24時間対応しています。大阪公立大学の学生はこの介護施設でも実習を行っています。非常に良い経験になると思います。

—— 診療科目の中では何科が最も患者さんが多いですか。

内科各科、泌尿器科などのニーズは多いのですが、とりわけ整形外科です。近隣の高齢者施設などで転倒されたりする方が多いです。高齢者は合併症が多いです。

吉村院長のご専門は何ですか。育和会記念病院の経緯なども教えてください。

区には中小病院が多く、公的病院がありません。今でも200床以上の病院は当院だけです。

私の専門は循環器内科です。大
阪市立大学（現・大阪公立大学）
医学部を卒業した当時は第一内
科と言われていました。私が当院
の院長になったのは昨年4月で
す。当院は昭和57（1982）年
に育和会記念病院として開設さ
れましたが、当時は100床程度

近年、人口減少に歯止めがかからず、後期高齢者の増加に伴う人口構成の変化（特に生野区）は大阪市内で最も人口密度が高い

また、前期臨床研修医の基幹型病院として毎年3名の研修医を受け入れ、さらに大阪公立大学病院の協力型病院として研修医を受け入れています。また大阪公立大学医学部、近畿大学医学部医学学生の医学実習のカリキュラムにも参加し、医学教育に力を入れています。

ことができません。月間で約50件以上の手術症例があります。人工関節センターでは、手術支援ロボット「Mako(メイコー)」を用いた人工股関節全置換術・人工膝関節置換術などを実施しています。

地域医療は全体医療各病院施設が役割分担して連携を

https://hospital.ikuwakai.or.jp/
育和会記念病院

◆吉村 隆喜 プロフィール

昭和51年 3月 大阪市立大学医学部卒業
4月 大阪市立大学附属病院 第一内科 入局

昭和56年 大阪市立大学医学部大学院 卒業

昭和60年 馬場記念病院 内科部長

平成 4年 育和会記念病院 循環器内科部長

平成12年 育和会記念病院 副院長

令和 6年 育和会記念病院 院長

循環器専門医
超音波専門医

しいところです。様々な問題が発生してきます。

地域の先生方、病院、施設との連携が緊密化する必要があります。これを実現するためには、これから地域医療を、地域を一体としてそれぞれが関連を持つ全体医療と考えていく必要があります。医療環境、社会構造の変遷に合わせた医療の構造的変化が求められています。

兹であります。また育和の和(W)
の心のこもつたサービスによって
患者さまが和やかな気持ちで治
療に専念していただける病院で
ありたいという意志の表れでも
あります。

これからも地域の皆さまのた
めに、あくまで人の尊厳を大切
に、暖かい医療を実践するため
に、職員一同頑張ってまいります。

——介護施設も設置されてい
るそうですね。

—— 育和会記念病院の基本理念を教えてください。